

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大砂土東小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	全体的には、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ることができた。しかし、個人差が大きいことから個別に必要な支援を講じていく必要がある。「ドリルパーク」等の、個別に蓄積されたデータを活かしていきたい。また、国語の主語・述語に全学年で改善がみられたため、「言葉の特徴や使い方に関する事項」への取組を全学年で重点的に取り組み、令和8年度の全国学力・学習状況調査等で引き続き改善状況を検証する。
思考・判断・表現	今後も継続して学習過程を見直し、活動の中に共同編集を位置付け、計画的に協働的な学びを通して考えたり、表現したりする。根拠となる部分(グラフを含む)を引用して自分の考えを具体的に書くことに課題がみられたため、教科横断的な視点として、グラフ等の資料を用いる際、「誰が」「どのような視点で」「どのような単位で」などを意図的に問い、資料を読み取る力を高める。また、各教科の学習で、根拠資料を基に、自己の考えをまとめる活動を引き続き重視する。

	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 基礎的・基本的な知識・技能の定着に個人差がある。 <学習上の課題> 国語の「主語・述語の理解」「目的に応じた適切な文章の読取」、算数の「複数の数量から必要な数量を選んて立式する」ことについて、課題が見られる。	⇒ レディネス問題や適用問題を通して児童が何をどれだけ理解しているかを教師が把握するとともに、理解度に合った問題に取り組む機会を設ける。【単元・題材ごと】 書き込み式ドリルやドリルパークの活用を通して、一人ひとりの課題に合った学習を進めていくことができるよう指導する。【週に一度】
思考・判断・表現	<学習上の課題>根拠となる部分を引用して自分の考えを具体的に書くことに課題が見られる。 <指導上の課題> 教師が各教科等における「思考力、判断力、表現力等」に係る指導内容を明確化すること。 授業において、意図的・計画的に協働的な学びを通して考えさせたり表現させたりすること。	⇒ 根拠となる資料を基に、自己の考えをまとめる活動を充実させる。【毎時間】 授業において意図的・計画的に協働的な学びを通して考えたり、表現したりできるようにする機会を設ける。【単元・題材ごと】 必要感があったり、児童の関心を高めたりする課題設定を行う。【毎時間】 思考・判断・表現に係る支援と評価を適切に行う。【毎時間】

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	A	漢字や基礎的・基本的な計算については、紙媒体のドリルやタブレット端末を用いたドリル学習を行っている。多くの児童が、自分のペースで意欲的に基礎学力を向上させることができている。また、タブレット端末を自宅に持ち帰り、自主学習として端末を利用した学習に取り組んでいる児童もいる。令和7年度さいたま市学習状況調査における「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか」の質問項目では、肯定的な回答の割合が90%を超えた。
思考・判断・表現	A	必要に応じて、単元の中で自由進捗学習や自己調整学習を位置付け、児童が自ら課題を設定し自分のペースで資質・能力を高められるようにした。また、単元の中で、考えたり調べたりしたことを成果物としてまとめる活動を意図的に位置付け、表現力の向上を図った。さらに、共同編集でスライドを作成したり、授業の中で考えを伝え合ったりする活動を積極的にを行い、協働的な学びの充実を図った。司書教諭を中心に、学校全体で読書月間に取り組み、読書への関心を高めた。継続して読書を行っていたことで、児童が「読書を早く読みたい」と読書への意欲を高めた学校もあった。令和7年度さいたま市学習状況調査「学校の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができるか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は90%を超えており、取り組んだ成果が表れている。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語では、学年別配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができるかどうかをみる記述式問題において課題がみられた。無解答率が不高くないことから、文脈ではなく読み方で判断し誤った漢字を書いてしまっていることが考えられる。 算数では、数値線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる短答式問題において課題がみられた。該当問題の前に単位分数についての説明があったうえでの解答であることから、児童が「分数は単位分数の幾つ分として捉える」ことを十分に理解できていないということが考えられる。 R7全国学力・学習状況調査の児童質問「分らないことやよくわく知りたいたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」に対する肯定的な割合がとても高い。今後も、児童が主体的に学ぶ授業を展開するとともに、基礎的・基本的な知識・技能をしっかりと習得させていく。
思考・判断・表現	国語では、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができるかどうかをみる短答式問題において課題がみられた。長い問題文の中から適切な言葉を探し出すことに課題がみられたため、読書量を増やしたり、文と文との関係性を捉えられるようになりすることが重要であると考えられる。 算数では、基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題において課題がみられた。問題文が長い、設問の意味を正しく捉える読解力、また、自らの考えを適切にアウトプットする表現力の向上が不可欠であると考えられる。 理科では、種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見いだし、表現することができるかどうかをみる記述式問題において課題がみられた。無解答率は低いことから、差異点や共通点を整理し表現する(文章にする)ことに課題があると考えられる。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語では、すべての学年において「文の中的主語と述語の関係を理解すること」に課題がみられた。一文が長くなればなるほど文の構成が複雑になり、主語と述語を正しく捉えることが難しくなるため、「○○が(は)」、「○○だ(である)」に着目し正しく主語と述語を捉えることができるよう指導する。 算数では、「3位数などの大きな位の計算や小数、分数、あるいはそれらが混合した計算を正しく行う」ことに課題がみられた。第3学年段階で「小数の数の構成の理解」に課題がみられる児童が多いため、低・中学年段階から十進位取り法や小数・分数の表し方について十分に理解できるよう丁寧に指導する。
思考・判断・表現	国語では、多くの学年で「相手や目的に応じて文章を整えたり、図表やグラフ等の資料を用いて自分の考えが伝わるように表現を工夫する」ことに課題がみられた。日々の授業において、資料を用いた文章作成は行っているため、資料が何を表しているかを的確に捉えながら相手に伝わる文章が書けるよう、教科横断的な視点からも様々な教科等で意識して指導にあたる。 算数では、多くの学年で「折れ線グラフや円グラフ等のグラフを正しく読み取る」ことに課題がみられた。グラフは、算数だけでなく、社会、理科等様々な教科で扱うため、教員一人ひとりがカリキュラム・マネジメントの視点をもち、教科横断的にグラフを正しく読み取ったり、グラフからわかることを文章で表現したりできるように指導する。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	レディネス問題や適用問題を通して児童が何をどれだけ理解しているかを教師が把握するとともに、理解度に合った問題に取り組む機会を設けることについては、多くの教員が取り組んでいる。 書き込み式ドリルやドリルパークの活用を通して、一人ひとりの課題に合った学習を進めていくことができるよう指導することについては、児童によって書き込み式ドリルの取組に差があることやドリルパークの活用は課題がある。	ドリルパークの内容を確認して、授業内や家庭学習において活用すること【単元・題材ごと】 教員の見取りの方法の研究【随時】
思考・判断・表現	B	根拠となる資料を基に、自己の考えをまとめる活動を充実させること、授業において意図的、計画的に協働的な学びを通して考えたり、表現したりできるようにする機会を設けることについては、多くの教員が取り組んでいる。 必要感があったり、児童の関心を高めたりする課題設定を行うこと、思考・判断・表現に係る支援と評価を適切に行うことについては課題があるため、研修等を通して課題設定の工夫や指導と評価の一体化についての理解を深め実践する。	文章を読み取る力を向上させるために、読書活動の充実を図る【10月の読書月間の実施】。 必要感のある課題設定の研究【随時】 思考・判断・表現に係る支援の方法の研究【随時】

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)